

【開催レポート】2023年11月11日(土)

渋沢栄一ひとづくりフォーラム2023



主催：渋沢栄一ひとづくりカレッジ
(深谷市、東京海上日動火災保険、チエノワ、埼玉新聞社)
後援：埼玉県、渋沢栄一記念財団、東京商工会議所、深谷商工会議所、
ふかや市商工会、埼玉りそな銀行、埼玉縣信用金庫、
埼玉県商工会議所連合会、埼玉経済同友会、埼玉県商工会連合会、
埼玉県中小企業団体中央会、埼玉県経営者協会 ※順不同・敬称略
会場：深谷市民文化会館 大ホール (埼玉県深谷市本住町17-1)

【挨拶】主催者・来賓代表

渋沢栄一ひとづくりフォーラム2023にご参加いただきありがとうございます。本日は皆様にぜひ「運」を持ち帰ってほしいです。私は若い頃、ろくな生活を送っていませんでした。しかし、運良く深谷市長になり、アウトレットの誘致や県庁建て替えなど深谷市の発展に貢献できています。さらに、深谷市に渋沢栄一翁ブームが来ています。私はよく「運が良いね」と言われますが、その理由は、いつも心に渋沢栄一翁がいるからです。政策を考案する際には理論ではなく、まずはこれをしたらみんなが喜んでくれるだろうな・ワクワクしてくれるだろうなと考えています。そして最後に自分の中にいる渋沢栄一翁に問い、自信を持って深谷市の街づくりに励んでいます。

今までたくさんの苦労を重ねてきた登壇者から、ぜひ運の掴み方を学んで下さい。渋沢栄一翁も本日の登壇者もトントン拍子に物事が進んだわけではなく、一生懸命努力をして運を掴んでいます。ただ、止まっていますは運は来ないです。皆さんの心のなかにも渋沢栄一翁がいるので、今日学んだことを自分の心の中にいる渋沢栄一翁に聞き、一步踏み出し、明日からの生活に活かしてください。

本日の会が皆様にとって有意義な時間になれば幸いです。



埼玉県深谷市
市長
小島 進 氏



本日はこのような素晴らしい会にお招きいただき誠にありがとうございます。小島市長の高い志とパワフルさは勿論のこと、チエノワ代表 田中さん(本プロジェクトの発起人)の熱量があるからこそ毎年継続して開催できているのではないのでしょうか。

渋沢栄一翁はいい人に出会い、学び、実践し、経験を伝えることで仲間と共に成長した方です。「優れた者の魂を真似よ」という言葉を残していますが、単に事業を遂行するだけではなく、広い視野・協調性・人的なネットワークを養成する能力を経営者に求めたのだと思います。また、渋沢翁は教育や国際親善など数百もの公共事業に尽力されました。私ども商工会議所も渋沢翁によって創立され、その後145年の歳月が経ちましたが、渋沢翁の精神は未だ商工会議所の職員・構成員に引き継がれています。ひとづくりカレッジの皆さまにおかれましては、更なる活動の強化とネットワークの拡大にお取り組みいただき、渋沢翁の精神を現代日本に広め、道徳と経済が両立した明るい時代を作る、そのような活動に期待をしています。

結びに、関係者の皆さま、そして本日ご臨席の皆さまの益々のご健勝を祈念しまして、挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。



埼玉県商工会議所連合会 会長
埼玉りそな銀行シニアアドバイザー
池田 一義 様



【来賓】皆様①

日本BE研究所 所長 行徳 哲男 様



産業雇用安定センター 会長 矢野 弘典 様



サイボク 代表取締役会長 笹崎 静雄 様



山田食品産業 代表取締役社長 山田 裕朗 様



渋沢栄一記念財団 執行理事 渋沢史料館顧問 井上 潤 様



埼玉県商工会議所連合会 会長
埼玉りそな銀行シニアアドバイザー
池田 一義 様



埼玉県商工会連合会 専務理事 岩田 英久 様



埼玉県中小企業団体中央会 事務局長 清水 敦史 様



株式会社埼玉りそな銀行 執行役員
埼玉県央・北地域営業本部長 三田 大介 様



埼玉縣信用金庫 執行役員 県北部エリア長 兼
営業推進部長 中村 雅俊 様



みずほフィナンシャルグループ
広報室長 執行理事 加藤 真 様



サイサン監査役 鳥塚 裕行 様

プラスチック・樹脂加工



PLAMO 代表取締役 茂木 淳志 様



氷川ブリュワリー 代表取締役 菊池 俊秀 様

【来賓】皆様②

大山畳店 副代表 大山 恵美子 様

 RDC アールディーシー 取締役会長 久志本 京子 様
Responsible & Delicious
for Customers

 渋沢 代表取締役社長 坂本 久 様

 八基通商 会長 福地 勉 様

 北海道清水町 町長 阿部 一男 様

 北海道清水町議会 議長 山下 清美 様

 群馬県伊勢崎市 市長 臂 泰雄 様



埼玉県狭山市 市長 小谷野 剛 様



埼玉県深谷市 議会議長 茂木 一郎 様



深谷商工会議所 会頭 村岡 正巳 様



ふかや市商工会 会長 沼尻 芳治 様

【参加者数】

750名

【第一部：論語編】パネルディスカッション



2023WBC
日本代表監督
栗山 英樹 氏

1961年、東京都生まれ。創価高校、東京学芸大を経て1984年ドラフト外でヤクルトスワローズへ入団。1989年にゴールデングラブ賞を獲得し、1990年シーズン限りで現役引退。引退後はスポーツキャスター、白鷗大教授などを歴任。2012年に北海道日本ハムファイターズの監督に就任。2021年まで10年間、指揮を執りパ・リーグ優勝2度。2016年には日本一に輝き、正力松太郎賞を受賞。2022年から野球日本代表「侍ジャパン」の監督を務め、2023年の第5回ワールド・ベースボール・クラシックで3大会ぶりの優勝を果たした。



郷学研修所・
安岡正篤記念館
理事長
安岡 定子 氏

1960年東京都生まれ。二松学舎大学文学部中国文学科卒業。漢学者・安岡正篤の孫。現在、**こども論語塾の講師として湯島聖堂・斯文会をはじめ全国各地で講座塾を開催**するほか、企業やビジネスマン向けセミナー、講演活動を多数行っている。『子や孫に読み聞かせたい論語』（幻冬舎）『心を育てるこども論語塾』『仕事と人生に効く 成果を出す人の実践論語塾』（共にポブラ社）『渋沢栄一と安岡正篤で読み解く論語』（プレジデント社）など、著書多数。



埼玉県深谷市
市長
小島 進 氏

埼玉県深谷市生まれ。深谷市立深谷小学校、深谷中学校、埼玉県立本庄高等学校卒業。高校卒業後、神田屋商店に入社。1996年、**深谷市議会議員選挙に出馬し、初当選。以後3期連続で当選し、市議会福祉文教委員長や市議会議長を務める。**2007年、市議を3期目の任期途中で辞職。民主党から埼玉県議会議員選挙に出馬し当選。2010年に深谷市長就任、現在4期目。



コーディネーター：埼玉新聞社
代表取締役社長 関根 正昌
関根正昌（せきね・まさよし）氏略歴

1959年生まれ、法政大学経済学部卒。85年埼玉新聞社入社、97年総務事業局部長、98年販売局販売部長兼発送部長、2003年広告局企画1部長、04年販売局長、07年取締役販売局長、10年取締役クロスメディア営業局長兼販売担当、13年取締役経営企画室長兼総務経理局長、14年取締役編集局長、経営企画室・総務経理担当、15年取締役編集局長、販売担当、16年常務取締役編集・販売担当、18年専務取締役販売・クロスメディア局担当



司会・進行：ワイエムプラス・縁
代表取締役社長 不破 縁

【第二部：算盤編】パネルディスカッション



△HP

なごみの米屋
代表取締役社長
諸岡 良和 氏

千葉県成田町(現成田市)に生まれた諸岡長蔵は、母なつと日本初の栗羊羹を開発し、1899年米屋を創業。長蔵は「人を助けて、わが身助かる」を信念として掲げ、当時の成田町内100箇所以上、全長7000m以上の道路を資金提供や自らも労働者として補修。1940年、公益財団法人諸岡報恩会を私費で設立。学生への奉仕など、社会奉仕活動を一生涯続けた。**2010年、企業として初めて渋沢栄一賞を受賞。**2015年、5代目良和が就任。「己に薄く、他に厚く」の精神を受け継ぎ、地元のみならず世界に向け和菓子の魅力を発信し、業界を牽引し続けている。



△HP

ヤマモリ
代表取締役社長
三林 圭介 氏

1889年、三重県桑名でしょうゆ醸造業として創業。1960年代、日本初となる袋詰液体スープやレトルトパウチ食品を相次いで開発。先代である三林憲忠は1980年代に業界に先駆けてタイに工場を建設。当時の日本ではまだ馴染みのないタイフードを国内で普及させるなど両国の食文化交流にも尽力。約40年間時代の変化に対応する経営で事業を拡大。加えて、**社会貢献の功績が評価され、2021年渋沢栄一賞を受賞。**2022年、圭介が社長に就任。ヤマモリのDNAである「変革への挑戦」を強化すべく、DX推進など社内改革プロジェクトを推進している。



△HP

石坂産業
専務取締役
石坂 知子 氏

1967年、石坂好男が練馬区で土砂処理業を開業。その後、埼玉県三芳町へ移り、産業廃棄物中間処理事業へと拡大。2002年、**経営方針を一新し、地域に愛される会社になるための変革を推進。**40億円を投資して建設した全天候型プラントには見学通路を設け、地域住民へと公開。現在では50カ国以上から年間6万人以上が視察に訪れる世界に類を見ないプラントに発展。「Zero Waste Designe」「ごみをごみにしない社会」「循環型社会の実現」を目指し、産業廃棄物処理業にとどまらない新たな挑戦を続けている。



コーディネーター：渋沢栄一ひとづくりカレッジプロジェクト 発起人 田中 雅也

1986年、石川県金沢市生まれ。2008年、筑波大学卒業後にPR会社へ就職。「メディアウェーブ＝発掘力(ネタ)×アイデアカ(工夫)×継続力(仕組み)」理論を用いた、メディア露出・話題づくりに従事し、年間180社以上の広報・PRを手掛ける。2013年、チエノワを設立。テレビ各局でビジネス番組、経済番組等を企画。PR・ブランディング手法としてピラミッド戦略を提唱し、年間200社の企業を手掛ける。(累計1,300社を越える)2020年、「渋沢栄一ひとづくりプロジェクト」を発足。深谷市・東京海上日動火災保険・埼玉新聞社・チエノワの4者で『渋沢栄一翁の顕彰に関する包括連携協定』を結び、2022年から本プロジェクトを本格始動。

【第一部：論語編】テーマ①「論語」との出会い

日本中で活躍する登壇者の論語との出会いとは



栗山 英樹 氏

40歳頃、勉強の方向性で漠然と迷いがありました。その頃に、新聞でよく紹介されていた本が「論語と算盤」でした。実際に読んでみると難しく、全く頭に入ってきませんでした(笑)。しかし、どうしても内容が気になったため、現代語訳されたものを読み進めました。「論語」と「算盤」という一見相反するものが交わり、共に正しい方向に進む様と野球を重ねることが出来、たくさんの学びを得ました。また、当時迷っていた自分に進むべき方向を教えてくださいました。中でも心に残っているのは「結果は数でしか無く、過程にこそ意味がある」ということです。野球は結果を求められますが、結果よりも精一杯やり続けることが大切であると学ばれました。WBCで監督を務めた際にも結果は考えずじみた選手と向き合いました。ちなみに、「論語と算盤」は大谷翔平選手も読んでいます。

安岡 定子 氏

論語との出会いは学校の授業でした。元々は漢詩の独特のリズムが好きだったため、自然に論語にも興味を持っていました。祖父・安岡正篤から直接薫陶を受けたことはありませんでしたが、大漢和辞典の引き方と、本当の学問とは疑問があった時、どうすれば解決できるかという方法を知っていることだ、という二つです。この教えが私の指針となりました。

小島 進 氏

市長になった時、右も左もわからない状況でたくさんの人と出会い、助けてもらいました。出会う人の殆どが自分の人生に芯を持っていて、どうしたら自分もそうなれるか？と悩んでいる時に出会ったのが論語です。「論語と算盤」を読んでみると、とても難しく何度も諦めかけました(笑)。ですが、学びもたくさんありました。特に、「自分の過去を肯定した上で、長所を伸ばしていく」ということは私の一つのエネルギー源になっています。論語は難しく、語ることはできませんが、自分の人生に活字や学びを与えてくれる、ありがたい学問です。

【第一部：論語編】テーマ②「論語」と「ひとづくり・まちづくり」

論語から何を学び、どのようにひとづくり・まちづくりを通して次世代に何を残していくのか



栗山 英樹 氏

今後は野球選手を育てるために、論語と野球という本を書きたいと考えています。論語から、競争相手に求めることや、育成方法など、ほとんどのことを野球に置き換えることができます。WBCは短期決戦ですが、私は長期的に考えていました。大会自体は2週間でも、選手は今後5年、10年と世界でプレーするからです。選手が世界に名を轟かせる機会だと思い大会に臨み、若い選手を使い続けました。まちづくりという観点では、北海道栗山町に栗の樹ファームという野球場を作りました。「フィールド・オブ・ドリームス」という映画が好きなのですが、映画のラストに「野球場に足を運ぶと、言葉が通じない人同士で自然と野球を始める」というシーンがあります。自分も自然と野球をやりたい環境を創りたいと思ったのがきっかけです。

安岡 定子 氏

渋沢栄一翁は欧州の産業を取り入れる時に、同時に思想や文化も入ってくると考えました。その時にそれらを受け止められるだけの日本の文化や精神世界を身につけなければならないと強く説きました。偏りのないバランスが重要です。ひとづくりでもまちづくりでも、分解すれば個になります。よい集団にするためには、個の質を上げることが大事です。知識や技術があっても実践しなければ意味がない。実践するためのエネルギーは感動する心と情緒だと祖父は言っています。人間も自然の大きな摂理の中のひとつです。自然を愛することもひとづくり・まちづくりには大切な感覚だと思います。

小島 進 氏

ひとづくりの観点から、渋沢栄一翁の考え方や精神を深谷市だけでなく日本中・世界中に広げていきたいです。2024年7月に新紙幣を発行しますが、日本中で喜びあいたい。できるかどうかは私の責任なので、日本中で渋沢栄一翁が関わっている場所へ行き、広めたいと考えています。最近では、東京タワーを商工会議所を中心にライトアップしたり、みずほ銀行を青くライトアップしたりと、ありがたいことに渋沢栄一翁の輪が日本中に広がっています。私はこの活動に感動・ワクワクしています。まちづくりも一緒に、感動やワクワクが大切だと考えています。正直今まで寝れないことや泣いたこともありました。しかし、振り返ってみると常に感動してきました。ついてきてくれる人たちがいるので、これからも私自身が感動しながらまちづくりを進めていきます。

【第一部：論語編】テーマ③「未来」～論語をどう活かしていくか～

論語の本質をどのように掴み、伝えていくのか



栗山 英樹 氏

野球選手に大切なことは誰もが小さい頃に教えられた、挨拶をしっかりする・嘘をつかない等の基本的なことです。これは難しいことではありませんが、よく蔑ろにすることがあります。選手が成長出来るのは基本的なことをしっかり出来るからです。その観点から考えると、WBCで最も感動したのは選手と間近に過ごすことが出来たことです。普段からプライドの高い選手30名が集まり、**自分を捨てて“日本のために”集まり野球をしてくれました。こういった行動のベースが論語と言う形になり、引き継がれている**のだと思います。先人が残した知恵は今後も活かしていきたいですし、自分の知恵も後世に残し、若い選手の育成に向けて形を作っていきたいです。

安岡 定子 氏

こども論語塾の講師をつとめて20年近くが経とうとしています。初期の子たちが社会人になり始めました。祖父が長期的な視点を持って私に接してくれたため、私もお子さんたちと気長に向かい合うことができます。論語を読んでどのような成果があるのか、という問いに答えるのは難しいですが、**それぞれのお子さんが志を持ち、努力する姿**を見せてくれています。**論語の精神が歳月と共に熟成されて実践できる**のだと思います。将来、彼らが社会の中心になった時の世の中に期待したいと思います。

小島 進 氏

未来の日本には子供が最も大事だと考えています。私が小さい頃の子どもたちは殆どが日本のプロ野球選手を目指していましたが、今の子どもたちは世界の選手を見ているため、レベルの高さに感心しています。子どもたちは常に上を見ているのです。これは子どもだけではなく、指導者も同じです。野球だけではなく、他のスポーツや業界でも常に世界のトップレベルの選手を見て、その上を行こうとしています。「今の若いものは」と言う人もいますが、私はそうは思いません。確かに、経済の指標で日本の水準を見れば低水準かもしれませんが、**これからは国民一人ひとりの生き方や生き様が大切になっていくと考えているため、私は日本の未来にワクワクしています。**



洪沢栄一 ひとつくりフォーラム2023

2023.11.11(土) 14:55~ in 深谷市民文化会館



洪沢栄一
ひとつくりカレッジ

第一部 論語編：テーマ「論語編～論語に通ずる“ひとつくり”～」

司会 & コーディネーター



2023 WBC日本代表 監督
栗山 英樹氏



公益財団法人 郷学研修センター
安岡正篤記念館 理事長
安岡 定子氏



深谷市 市長
小島 進氏



不知 縁氏



関根 正昌氏

論語との出会い

栗山氏 選手引退し、勉強するため
本を読み、方向性は悩み



新聞の特集で
論語と算盤を知る

結果を求める
過程が大事

安岡氏 安岡正篤(叔)書庫に
好きに出入りができた



精一杯やめたことが大事

叔父に質問すると、答えは無く
答えが載っている本を教えた

小島氏



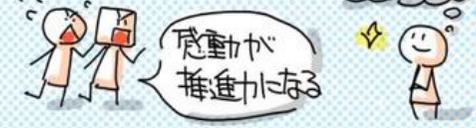
本の中に
論語もあった

出会った心を持つ人の
多くが論語のキンド
が出て来て興味を持った

論語とひとつくり、まちづくり

野球と論語の共通点が多い

栗山氏 ライバル 同じ食卓の
競争相手 ポジションを
与えて待つ



慎重さが
推進力になる

人は困ると
短期的に考えてしまふ



長期的に考えると
安定する



地域協力を個人の
質を上げて協力を
自然と愛する気持ちが大事



知恵・技術があっても
実践をしないとイケない

論語を未来にどう生かしていくか

野球選手にとっても大切な事は挨拶
などのあたり前の事を実践できるか



伸びる人は
ベースができている

小中学校で論語を学ばせる供達の
20年後、30年後が楽しみ



国民1人1人の
モチベーション・生き様が大事になる



【第二部：算盤編】テーマ① ターニングポイント～苦悩から覚悟へ～

苦悩・葛藤の中でいかに覚悟を定め、どのようにイノベーションを興しながら危機的な状況を乗り越えたのか

【米屋】事業承継

2010年（平成22年）2月、第8回「渋沢栄一賞」受賞
全受賞者（延べ54名）のうち、唯一の企業受賞



なごみの米屋
諸岡 良和 氏

2015年11月、先代の急逝後、事業承継に直面。驚きましたが、**父親が与えてくれた試練は、「経営者としての覚悟を定める機会」**になりました。創業者の伝記を読み、信頼・信用の大切さを実感したため、自分自身に理念を落とし込んでいます。今はまだ読んで体現していますが、今後は読まなくても体現できるように努めていきます。地域に根づくために地元ファンの拡大と、成田山観光促進のために成田羊羹資料館を設立しました。さらに、今まで薄利多売の事業を行っていましたが従業員が疲弊するため事業の方向性を変え、従業員幸福を優先した経営を始めました。**「原料生産者の皆様は大切なパートナー」という強い思いがあり、一次産業をサポートし、生産者との連携した取り組み**を行っています。理念教育とSDGsを組み合わせた研修を年2回実施したり、DX技術を導入したりとひとつづくりにも対応しています。

ヤマモリ
三林 圭介 氏

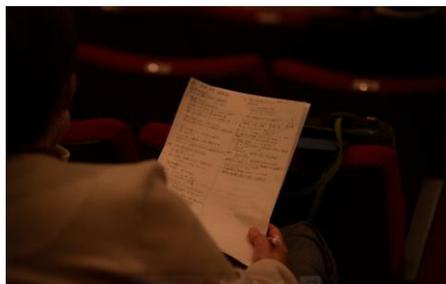
VUCA時代において組織全体が柔軟で認証性のある考えが必要だと思い、2020年に組織変革プロジェクトYTA（ヤマモリ・ターン・アラウンド）を始動。130周年を機に行ったこの変革では、業務内容や役職にとらわれず全社員が参加し、社内の23の課題を役職関係なく社員全員で解決していく取り組みが始まりました。社長就任時には「経営は環境適応業」「ベンチャースピリット×凡事徹底」という言葉を伝え、価値創造の戦略ピラミッドを策定し、公表しました。さらに、**自社ブランドを構築するためにOEMで得たデータを活用し、市場のニーズに応じた商品を開発**。トップダウンから従業員との対話型へと転換し、次なる100年への**「変革への挑戦（アジャイル）×倍速（スローガン）」**を掲げています。従業員の幸福感と夢の追求を大切に、環境変化に迅速かつ柔軟に対応する組織文化を構築しています。

石坂産業
石坂 知子 氏

最初の苦悩は2002年事業承継後に、制作費15億・売上の7割を占めていた会社のシンボルである煙突を地域のために撤廃したことです。さらに追い打ちをかけるかのように、翌年2003年には、ISO取得により社員の4割が一斉退職、平均年齢55歳から35歳に低下。手荒な血の入れ替えでしたが、これがあつたおかげで今の石坂産業があると考えています。2つ目は**40億円をかけて全天候型プラント設立。業界のイメージを変えるために誰でも工場見学ができる工場をつくりました**。今では50カ国から年間6万人が訪れる場所になり、Amazonの気候変動対策に関する誓約に日本企業で初めて著名するなど世界で認められています。3つ目は「三富今昔村」をつくったことです。きっかけは雑木林を管理したときに、地域住民から利用したいという声があがってきたこと。永続的に続けられるよう、来場者からは入村料を頂いています。

【第二部：算盤編】テーマ②ひとづくり～人を活かし、時を超える挑戦～

先代から引き継いできた歴史や伝統をもとに、どのように次の時代に挑戦していくのか



【石坂産業】ひとづくり～人を活かし、時を超える挑戦～

2013年石坂技塾、2021年石坂ユニバーシティ設立
2023年～手あげ文化の創造



なごみの米屋
諸岡 良和 氏

和菓子の文化を世界に広めるため、複数の企業と共同で「羊羹コレクション」を展開しました。このプロジェクトはパリ、シンガポール、ニューヨークで開催。
ビーガンでも食べられることから想像以上に羊羹が東洋文化とマッチし、大盛況でした！
挑戦する際は誰も失敗をすることがあると思いますが、私は「**幸せは自分が決めるもの**」という言葉大切にし、失敗したとしてもプラスに捉えています。

ヤマモリ
三林 圭介 氏

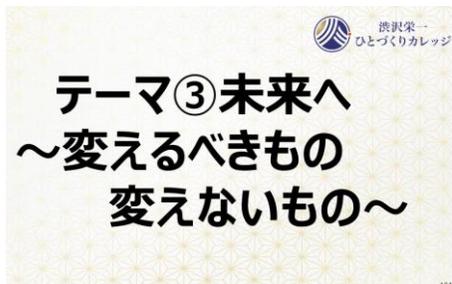
論語には「性、相近し。習い、相遠し」（人間の本来の性格にはそれほどの違いはないが、後天的な習慣や環境による変化によっては、大きな差異が生じてくる）とあります。私も習慣が大切だと考え、「7つの習慣」という本に書いてある1つ目の習慣「**主体的である**」を参考に、**主体性を重視した組織変革プロジェクトYTAを推進**しています。同時に、タイに拠点を持っているため、技能実習生を受け入れ、技術を身につけた後にタイの工場で活躍する機会を提供。さらに、ささやかですが、本社が位置する三重県では、小学生を対象に工場見学を実施し、地域との繋がりをつくっています。

石坂産業
石坂 知子 氏

幼い頃から憧れていた創業者の経営を継ぎ、「**社員一人ひとりと向き合い、個の力を引き出すこと**」を大切に経営を始めました。2013年に石坂技塾、2021年に石坂ユニバーシティを設立、2023年には社員が手を挙げる文化の創造に着手。創業者の経営判断を盗み、次に繋げていこうと社員の主体性を促進するプロジェクトを始動しました。**社員が講師となる取り組みや年3回の社員との面談を通じて積極的な意見を引き出し、社員定着率を53%から10年かけて90%に向上**させることができました。さらに新卒採用を始めてグローバル1期生を迎え、社会性、環境性、事業性を組み合わせたプロジェクトを進行。時間と費用をかけても「人材育成に終わりはない」と考えています。

【第二部：算盤編】テーマ③未来へ～変えるべきもの、変えないもの～

後継者として守ってきた歴史や伝統、その中で時代の変化、苦難や葛藤の中で変えなければならないものとは



なごみの米屋
諸岡 良和 氏

企業には変化がつきものであり、時代の潮流には逐一適応しなければなりません。しかし、不変のものも存在します。それは企業理念です。理念は変えることなく、変動する他の要素に対してもしっかりと立ち向かっていくべきだと考えています。これによって、企業は時流に沿いつつも自社の文化を守り、持続可能な成長を遂げることが可能だと考えています。

ヤマモリ
三林 圭介 氏

先行きが見えない現代では環境変化への適応が必要で、実現するためにはビジネスモデルの変革が欠かせません。その中で最も重要なのは人だと考えます。「企業は人なり」といわれるため変化に適応できる人材を育成し、社員たちが幸せを感じる職場を構築することが不可欠だと考えています。さらに、従業員の満足度向上に注力していくことも変えないことのひとつです。

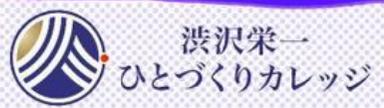
石坂産業
石坂 知子 氏

創業の想いに「六方よし」というものがあります。これは近江商人の三方よし（売り手よし・買い手よし・世間よし）に加え、地球の保護はどうか、未来はどうか、さらに作り手（社員）はどうかの3つを加えたものです。企業を変革する際にはこの6項目に当てはまっているかを重視し、変えても良いのか変えるべきでは無いかを判断しています。



渋沢栄一 ひとつくりフォーラム2023

2023.11.11(土) 16:00~ in 深谷市民文化会館



渋沢栄一
ひとつくりカレッジ
司会 & コーディネーター

第二部 算盤編：テーマ「算盤編～新たなる挑戦、その裏にある苦悩・葛藤」

登壇者 (パネリスト)



なごみの米屋
諸岡良和 社長



ヤマモリ
三林圭介 社長



石坂産業
石坂知子 専務



不和 縁 氏



田中 雅也 氏

① ターニングポイント

～苦悩から覚悟へ～



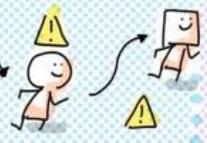
父の急逝から経営者の覚悟を決めた



薄利多売から高性価格へ



先の読めないVUCAの時代
全社員が敏捷性を持ち組み
ベンチャースピリットを持って
危機感を持って行動する



ISOで社員4割リ辞職
⇒ 社員の若返りが実現

40億円かけて
工場を改革



② ひとつくり

～人を活かす、時を超える挑戦～



自社の技術力を上げ
海外に日本の文化を発信する

事実上17でも感じ方はそれぞれ
「幸せは自分が決めるもの」



17つの習慣の中から主体的で
ある事を社員に徹底していきまし
本社がある三重県で出前授業や
工場見学を社内と地域の
ひとつくりビジネスを通じて行う



2013年から続けている石坂塾は
社員の強みを活かして会社に存ける
講師やシニア上位には一般社員もいる



③ 未来へ

～変えるべきもの、変えないもの～



理念は絶対変えないが、それ
以外は何かが変わっても仕方ない



環境変化に適応できる人材を
つくり出さなければならぬ。
進化をさせていきたい



社員にとって幸せかどうかと
いう軸で、今後変えていきたい



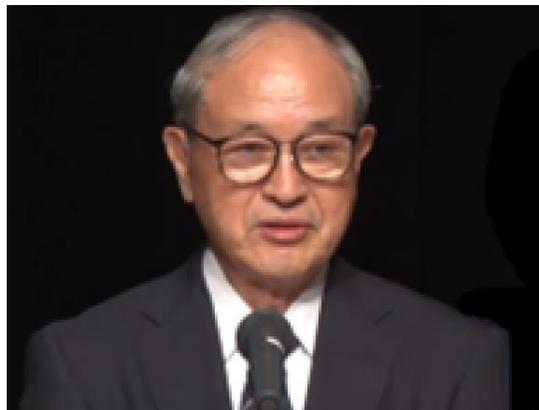
【総括 & 発表】矢野 弘典 様

昨年も参加しましたが、今年のフォーラムは一層素晴らしいものでした。第一部と第二部の発表から、知識を得ること、信じて実行することの大切さを再認識しました。**知識というものは知っているだけに過ぎませんが、行動することでその知識に責任が生まれる**と考えたからです。

一以貫之（いつもって、これをつらぬく）という好きな論語の言葉があります。自分の仕事・事業を貫くことがどれほど尊いものなのかという意味です。この論語はまさに人々の心の支えになる言葉だと思います。もうひとつは「三方よし」です。500年前の会社が「売り手よし、買い手よし、世間よし」をモットーに経営をしたところ、500年経った今でも会社を残しています。この教えを大切にしている企業が多いがために日本にはたくさんの長寿企業があります。これらはやろうと思ってもなかなか出来なため本当に素晴らしいことであり、日本の誇りです。しかし、これがいつまで続くか分かりません。目先の損得に目を奪われ、会社の信用や人への信頼を蔑ろにすると企業の長寿化は薄れていくでしょう。ですが**本日のフォーラムで日本の企業は永続すると確信**いたしました。

最後になりますが、私は12年前から論語塾をしているのですが、子供に何も教えなくても靴を脱ぎっぱなしだった小学生が論語を素読するだけで靴をしっかりと並べるようになり、しっかりと御礼を言えるようになりました。論語自体が素晴らしい力を持っているのだと思います。

論語が長寿企業を生み出し、未来の日本を創る子供たちを育てると考えています。全てはひとつづくりに尽きると考えております。今後も本フォーラムがひとつづくりを目的として大勢の方にご参集いただき、開催出来ることを願っております。本フォーラムにご協力いただいている皆様方に心より御礼を申し上げます。閉会の挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。



産業雇用安定センター
会長
矢野 弘典 様





日本BE研究所所長
行徳 哲男 様

徳川光圀公をご存知でしょうか。江戸時代前期の大名で常陸水戸藩の第2代藩主なのですが、彼は強さとや優しさを掛け持った人物でした。その強さは力ではなく優しさです。

本日参加されている皆様の中には経営者などの人の上に立つ立場の方も多いと思います。**知識だけでなく、皆様の優しさをういてそれぞれ****のひとづくりを推進**していただければ幸いです。

本日は誠にありがとうございました。



渋沢史料館
顧問
井上 潤 様

去年は公務のため欠席しましたが、今年は参加できたこと、とても嬉しく思います。本日の話から、**渋沢栄一扇の人づくりが地域や国を形作る大元であり、基本的な価値観を大切にしていくことが成長への鍵だと確信**しました。パネルディスカッションの中で論語のような根本的な考え方が見られ、その中で登壇者の考えを伺うことが出来ました。さまざまな分野からの話を通じて多くを学び、後世に伝わるようなフォーラムになったと思います。

このフォーラムだけでなく、他の行事でも深谷市を中心に人が繋がり、成長できれば幸いです。



山田食品産業株式会社
代表取締役社長
山田 裕朗 様

本日まで登壇された皆様は共通して立派な考えを持ち、それぞれに軸があると思いました。話を聞いている中で、持続的な成功を収めている企業の秘訣を理解できました。お話をされている姿勢からも、私も学びがありました。**今日聞いて終わりではなく、私生活でも活かして次の世代のひとづくりに活かしていければ**と思います。本日は貴重な経験と知識を共有していただき、心から感謝申し上げます。

来年度の開催も楽しみにしております。



深谷商工会議所
会頭
村岡 正巳 様

たくさんの皆さんに懇親会に参加いただきありがとうございます。渋沢栄一翁のひとづくりフォーラムが毎年良くなっていると感じています。東京商工会議所が東京タワーを藍色に染めましたが、今年で3回目の取り組みで、藍色にライトアップする活動は全国56箇所で行われています。今後は命日の11月11日だけでなく、誕生日の3月16日にもお祝いできればと考えています。皆様、引き続きよろしくお願いたします。



ふかや市商工会
会長
沼尻 芳治 様

たくさんの人と出会う中で、人を信じることを最も大切にしてきました。これは普段の人間関係だけでなく、ひとづくりや商売の観点でも最も大切な要素だと考えています。今後は会の代表として深谷市だけでなく、日本・世界と視野を広げて多くの企業を巻き込んで開催できればと思います。引き続きよろしくお願いたします。

本日は誠にありがとうございました。



株式会社渋沢
代表取締役社長
坂本 久 様

渋沢栄一翁の「論語と算盤」を元にした3名のパネルディスカッションはもちろん、経営者の方々のお話を聞くことができ、非常に勉強になりました。また、自分より若い経営者が登壇していることに刺激を受けることも出来ました。

私だけでなく、本日登壇された皆様の役に立っていると思いますので、ぜひ今後も開催していただければと思います。来年もやるようでしたら、ぜひ出席させてください！

本日は誠にありがとうございました。



深谷商工会議所
副会頭
鵜養 秀男 様

今年が3回目の開催となりましたが、**毎年**の**進化している**ように感じます。特にパネリストに若手の経営者が登壇していることが良かったです。実際に体験しているの苦勞や事業継承に関する話題がとても勉強になり、盛り上がりました。来年以降は若い世代にもパネルディスカッションを聞いてもらいたいと思います。息子たちの世代に向けてもっと広めたいと考えているからです。

本日は本当にありがとうございました。



埼玉りそな銀行
深谷支店長
瀬村 泰紀 様

本日は大変参考になるお話をいただきまして、誠にありがとうございました。ひとづくりの大切さは日頃から意識をしていましたが、本日フォーラムに参加することで更に重要性を認識することが出来ました。**本日聞いた話を私一人の知識にするのではなく、会社で共有し、現場で活かしていきたい**きます。

今日は本当にありがとうございました。



埼玉縣信用金庫
深谷支店長
中田 孝之 様

いつもお世話になっております。本日のフォーラムを通して渋沢栄一翁の精神を学ぶことが出来ました。今まで受け継がれた精神を活かして今後の仕事やプライベートで活用できればと思います。また、人を信じるという部分はこれからの私達に非常に大切な課題だと感じています。**具体的な施策を考え、次世代に残す知恵として今後に繋げていきたい**と思います。

本日はご盛会誠にありがとうございます。

【当日の様様】写真一覧



【アンケート】参加者の声

Q：ひとづくりフォーラムに参加して、気づきや学び等、率直な感想をお願い致します。

・原理原則に立ち返り、大切に日常を生きていく。ワクワクすること、感動を大切にしていきたいと思いました！

・論語を学び人生の最期を「良かったなあ」と思える人生を送りたい。結果ではなく過程を大事にして1日1日に向き合っていきたいと思います！

・論語の凄さや、渋沢栄一という人物の良さがあらためてよく分かりました。何か迷ったときには、論語を参考に、人生を豊かにしていこうと思います！すぐ参考になりました！

・フォーラムに登壇された方々のように、渋沢栄一翁の「論語と算盤」の精神を座右の銘として、今後仕事や日々の生活に活かしていけるよう、精進しなければと思われました。何かを成し遂げる人は必ず芯に自分の拠りどころとなるものを持つことは、見習いたいと思います！

・論語と人や街づくりの関係について、理解が深まりました。あらためて論語を学び腹落ちさせてからひとづくりに活かしていきたいと思います！

Q：本日のフォーラムはご満足いただけましたか？（第一部論語編）

1.大変満足	88%
2.満足	10%
3.どちらともいえない	2%

Q：本日のフォーラムはご満足いただけましたか？（第二部算盤編）

1.大変満足	79%
2.満足	21%
3.どちらともいえない	0%

Q：「渋沢栄一の精神」を胸に挑戦してきた企業の知恵を定期的に学びたいと思いますか？

1.学びたい	100%
2.学びたくない	0%

Q：「学びたい」を選択頂いた方へ、どんなテーマでの本音や裏側を学び、実行していきたいですか？

<input type="checkbox"/> ひとづくり	73%	<input type="checkbox"/> 人材採用	16%
<input type="checkbox"/> 地域との共存（社会貢献）	51%	<input type="checkbox"/> 現地見学	16%
<input type="checkbox"/> 失敗談	33%	<input type="checkbox"/> 事業継承	12%
<input type="checkbox"/> 成功哲学	31%		
<input type="checkbox"/> 危機管理	24%		

「渋沢栄一ひとづくりカレッジ」

～道徳と経済を両立させた実践エッセンスを学び、未来へ繋ぐイノベーション・プラットフォーム(ひとづくり&未来づくり)～

500社以上の企業に携わり、「近代日本経済の父」と呼ばれる実業家であるものの、
渋沢栄一の中心は“ひとづくり” (主にビジネス教育&人材育成面での多大な貢献)にある。
その真髓を体現する方々の知恵を学び、未来を切り拓く人財へ導く社会人カレッジを埼玉県深谷市に築く。



2020年11月11日 3者包括連携協定
(深谷市、東京海上日動、チエノワ)

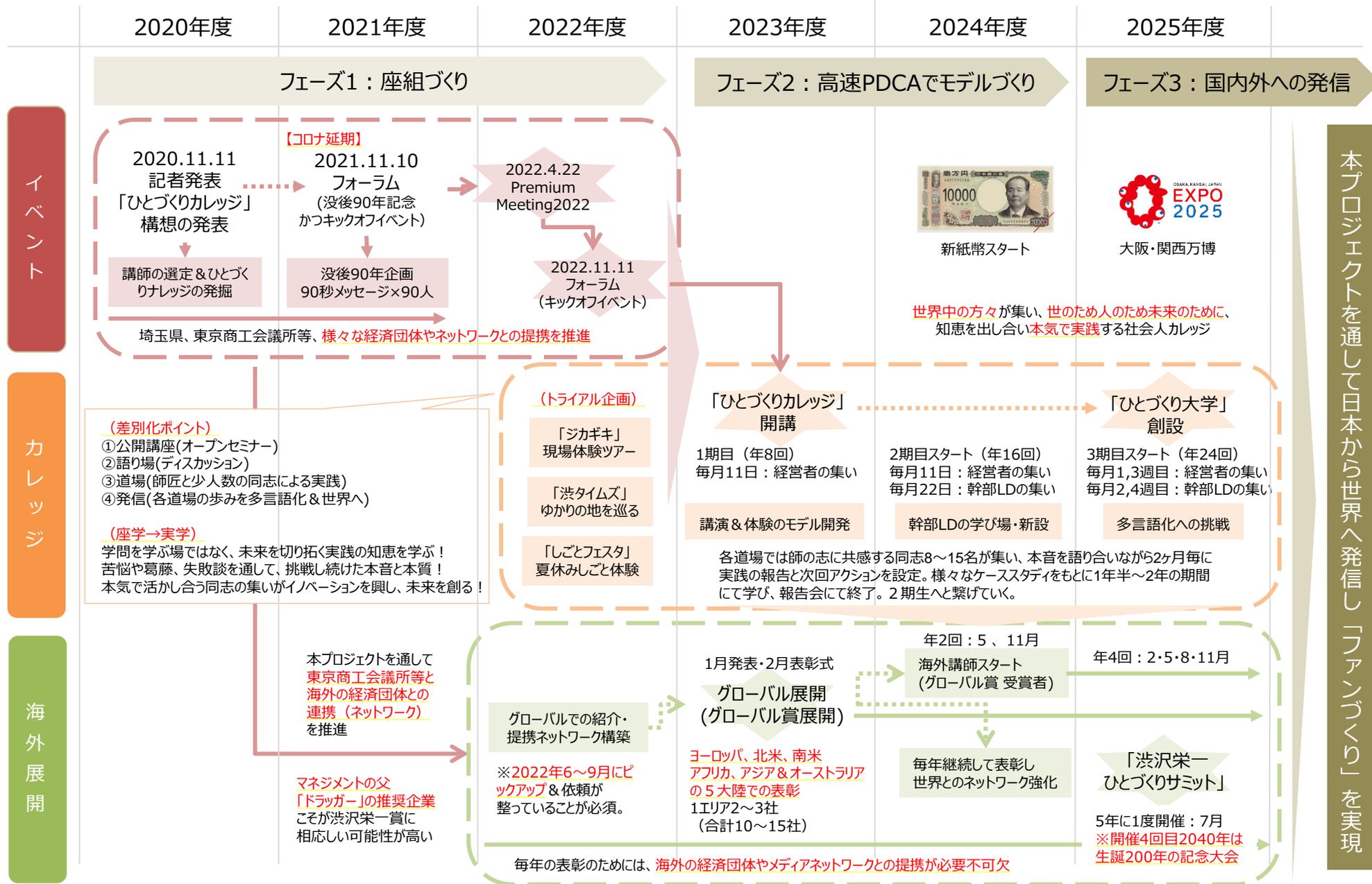


2022年3月16日 4者包括連携協定
(深谷市、東京海上日動、チエノワ、埼玉新聞社)



深谷市・東京海上日動・チエノワ・埼玉新聞社を軸に、ご縁ある皆様にお力添えを賜り本プロジェクトを推進。

【ひとづくりカレッジ概要】5カ年計画



本プロジェクトを通して日本から世界へ発信し「ファンビュアリー」を実現

【ひとづくりカレッジ概要】渋タイムズとは

渋沢栄一翁の顕彰かつ、ひとづくりカレッジプロジェクトの推進のために、埼玉県深谷市の小島市長を中心とした「渋沢栄一ひとづくりカレッジメンバー」が、日本全国の渋沢栄一翁ゆかりの企業や団体と対話する企画を立ち上げました。渋沢栄一翁と英国の大手新聞「タイムズ」を掛け合わせた造語として、「渋タイムズ」と命名。



※過去開催実績

- # 0 1 渋タイムズ：5/21(土)水戸徳川ツアー
- # 0 2 渋タイムズ：6/29(水)東京都中央区長との面談
- # 0 3 渋タイムズ：6/29(水)いざ静岡（駿府）へ



【ひとつづくりカレッジ概要】ジカギキとは

学ぶ意欲の高い若旦那衆（深谷の若旦那+日本全国の
長寿企業の若旦那=10~15名程度）の皆様と共に、
渋沢栄一翁の精神を体現する企業さまへ見学&体感ツアー

—を開催。「ジカギキ」とは、直接、現場で現物を体験しながら、
現実を学び、語り合う中で知恵を深める機会にしたくま
さに直に聞き合う（語り合う）ことを目的とした、学びの体験
ツアー

～現場で現物を体験し、現実を学ぶ～



※過去開催実績

- Vol.1：伊那食品工業（2022年8月）
- Vol.2：赤城乳業（2023年1月）
- Vol.3：サイボク（2023年7月）

《 Vol.1：伊那食品工業》

▽埼玉新聞社掲載記事



開催レポート▷

《 Vol.2：赤城乳業》

▽埼玉新聞社掲載記事



▽開催レポート



《 Vol.3：サイボク》

▽埼玉新聞社掲載記事



開催レポート▷

